

# SYDかわらばん

〈最新活動情報 No.151〉 2021年5月20日号

## ～歴史探訪～修養団事務所の変遷（前半）

最初の「修養団会館」が東京・代々木の地に竣工したのは大正15年。現在のSYDビルは3代目になります。115年の歴史の中、修養団事務所は会員の活動拠点として、また運動の情報発信の役割を担いながら現在に至っています。そのうち、今回は昭和30年代までの主な変遷をご紹介します。

### 下宿からのスタート

明治40年、東京府師範学校を卒業し、赤坂尋常高等小学校に奉職した蓮沼門三は、牛込区袋町（現・東京都新宿区）に下宿。その後九段中坂（現・東京都千代田区）に下宿を移したが、この下宿の一室を「修養団本部」の事務所とし、修養団機関誌「修養団」の発行・印刷に励む。



団の活動が活発になり下宿の一室では手狭となったため、麹町区飯田町（現・千代田区）の借家を事務所とし、その翌年、四谷区左門町（写真、現・新宿区）へ移転。教職を辞し修養団運動に専念することにした門三は、教師、学生ら6人と起居を共にしながら生活即修養の場とした。

### 拡大と震災を経て現在地へ

大正2年、学生寄宿舍「第二向上舎」建設にあたり、東京高等工業学校（東京工業大学の前身）校長・手島精一の尽力により浅草南元町（現・東京都台東区）、同校の土地が候補となった。

更に門三はその隣地である第一高等学校（東京大学、千葉大学の前身）ボート部の土地を借りたいと願い、渋沢栄一、手島精一、新渡戸稲造（第一高等学校長）の協力のもと無償貸与を受けるとなり、第二向上舎、門三住居、そして修養団本部が建設されたが、当時団勢の急速な拡大で、建設後わずか6年で団員は9倍（約18,000人）になり事務所は手狭になる。そこで大正9年に新たな会館建設計画を発表し、全国団員から浄財が寄せられた。

大正13年、宮内省から「明治神宮北参道正面の千駄ヶ谷の地」600坪を無償貸与されることとなり、前年の関東大震災で本部事務所を失った修養団にとって朗報となった。大正15年3月、地上3階・地下1階の「修養団会館」が落成した。



### 戦火を乗り越え

大正15年7月には「第1回東京婦人講習会」が開催されるなど、修養団の各種講習会の会場としても利用されるようになる。

その後の戦時体制の中、幸いに修養団会館は戦火を免れた。一時期は活動が衰退したものの、戦後の昭和23年には代々木地域の子どもたちを対象に〈代々木の森子供会〉を設置し、月2回の例会では音楽や遊戯、紙芝居、講話などのほか、七夕やクリスマスの時期に集いをおこなった。

また、昭和30年には楽しい音楽教室〈森のコーラス会〉が誕生し、修養団会館を会場に毎週水曜日に教室を開催。孤児施設での慰問コーラスが契機となり、翌31年には都内グラウンドで5,000人の大合唱を開催するに至った。



昭和29年の「集団就職列車」運行開始に伴い、多くの若者が都会へ集団就職した。住み込みで働く若い人々が休みを持って余す状況に鑑み、修養団は昭和33年10月から〈東京青年ホーム〉と称し、会館ホールを毎月4日開放し、フォークダンス、教育映画の上映、クリスマスパーティー、映画スターとの交歓会、運動会など、さまざまな企画をおこなった。

〈東京青年ホーム〉は東京都教育委員会や新生活運動協会が後援し、東京都庁の部局や各種団体の指導・助言を受け、16年間にわたり継続実施された。

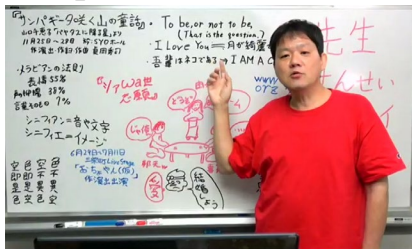


【参考文献・資料】『向上』『修養団運動八十年史』『社会教育100年・「愛と汗」の歩み』

**主催事業・活動等**

**報 告**

**4/23…「オンライン青年ボランティアゼミナール」27人** 《貞岡秀司》



脚本家・演出家の貞岡秀司さんが「I love you＝月が綺麗ですね」ってマジ！？～ことばの奥にあるもの～」のテーマで講演。

「シェイクスピア戯曲のセリフの訳し方」、「漢字・ひらがな・カタカナ」などを例に日本語の表現の幅広さを伝えたほか、舞台のワンシーンを題材にした登場人物の心理描写を通じ、表情、声の抑揚での印象の違いに触れ、対面でのコミュニケーションの重要性について講演した。

**5/15…第1回「Zoomでオンライン家庭《共育》ひろば** 《久世愛里》

※詳細は次号に掲載いたします

**予 定**

**5/21…「オンライン青年ボランティアゼミナール」** 《山本マルコス幸男》

**6/4…「修養団評議員会」**〔東京都・SYD会議室〕

**6/5…第10回「全国修養団運動推進会議」**〔東京都・SYDホール〕

**情報あれこれ**

⊗「東北へメッセージを届けよう！」プロジェクト



東日本大震災から10年が経過した今も復興住宅に住む方々の心に寄り添いたいと考え、SYD青年部が復興ボランティア参加者や支援者を中心に「被災地に向けたメッセージ」を募集。全国各地、またブラジルやマレーシアから43人が写真や絵手紙などを寄せた。

メッセージは宮城県・石巻市社会福祉協議会を通じて、SYDのボランティア活動で訪問した2ヶ所の復興住宅に渡された。

〈発行・連絡先〉

SYD(公益財団法人修養団) 社会教育部  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2  
☎03(3405)5441 FAX03(3405)5424

E-mail : info@syd.or.jp

ホームページ : https://syd.or.jp/

SYD 検索